

## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月7日

東

上場会社名 デンカ株式会社 上場取引所  
 コード番号 4061 URL http://www.denka.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山本 学  
 問合せ先責任者 (役職名)コーポレートコミュニケーション部長 (氏名)福岡 智 (TEL)03(5290)5511  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	76,233	△16.1	4,402	△34.8	5,011	△21.3	4,190	△16.5
2020年3月期第1四半期	90,884	△3.3	6,747	△2.7	6,367	△20.5	5,018	△19.4

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 5,512百万円 (37.4%) 2020年3月期第1四半期 4,011百万円 (△18.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	48.58	—
2020年3月期第1四半期	57.75	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	503,269	253,873	49.8
2020年3月期	501,448	254,014	50.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 250,707百万円 2020年3月期 250,720百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	60.00	—	65.00	125.00
2021年3月期	—				
2021年3月期(予想)		60.00	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2. 2021年3月期の期末配当予想につきましては未定と致しますが、当社は経営計画「Denka Value-Up」で定めた株主還元方針に則り配当金を決定し、公表が可能となった時点で速やかに開示する予定です。  
 なお、株主還元方針につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	160,000	△16.6	12,000	△21.8	12,000	△17.4	10,000	△7.9	115.94
通期	360,000	△5.5	31,000	△1.9	29,000	△3.4	21,000	△7.5	243.48

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 業績予想の詳細につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	88,555,840株	2020年3月期	88,555,840株
2021年3月期1Q	2,307,469株	2020年3月期	2,307,067株
2021年3月期1Q	86,248,498株	2020年3月期1Q	86,904,391株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	12
2020年度 第1四半期決算概要	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が制限され、個人消費や輸出が急速に減少しました。また、世界経済も、感染症の世界的な流行により景気が大きく下振れし、極めて厳しい状況となりました。

このような経済環境のもと、当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力いたしました。

当第1四半期連結累計期間の業績は、一部の電子・先端プロダクツ製品で販売数量が増加したものの、全体的には世界的な景気後退による需要減のため販売数量が減少したほか、原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しもあり、売上高は762億33百万円と前年同期に比べ146億51百万円（16.1%）の減収となりました。利益面では、営業利益は44億2百万円（前年同期比23億45百万円減、34.8%減益）、経常利益は50億11百万円（前年同期比13億56百万円減、21.3%減益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億90百万円（前年同期比8億28百万円減、16.5%減益）となりました。

#### <エラストマー・機能樹脂部門>

当部門の売上高は271億26百万円と前年同期に比べ122億62百万円（31.1%）の減収となりました。

クロロプレングムの販売は、感染症拡大の影響を大きく受け自動車産業を中心に全般的に生産活動が停滞したことから、前年を下回りました。また、スチレンモノマーやデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂およびMS樹脂の販売は、原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことから減収となりました。

#### <インフラ・ソーシャルソリューション部門>

当部門の売上高は117億6百万円と前年同期に比べ11億77百万円（9.1%）の減収となりました。

特殊混和材や農業・土木用途向けのコルゲート管の販売は概ね堅調となりましたが、セメントや肥料、耐火物・鉄鋼用材料は前年を下回りました。

#### <電子・先端プロダクツ部門>

当部門の売上高は155億54百万円と前年同期に比べ46百万円（0.3%）の増収となりました。

球状アルミナはxEV関連を中心に販売数量が増加し、電子部品・半導体関連分野向け機能フィルムや球状溶融シリカファイバーは、5G関連やデータセンターの世界的な需要の拡大により堅調に推移しました。また、高純度導電性カーボンブラックや高信頼性放熱プレート“アルシンク”、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”は概ね前年並となりましたが、金属アルミ基板ヒットプレートなどの自動車産業用製品の販売は前年を下回りました。

#### <生活・環境プロダクツ部門>

当部門の売上高は78億51百万円と前年同期に比べ9億77百万円（11.1%）の減収となりました。

食品包材用シートおよびその加工品の販売は、テイクアウト需要の増加により堅調に推移しましたが、プラスチック雨どいおよび合繊かつら用原糸“トヨカロン”、工業用テープの販売は前年を下回りました。

#### <ライフイノベーション部門>

当部門の売上高は52億74百万円と前年同期に比べ1億38百万円（2.7%）の増収となりました。

試薬の販売は、感染症の影響で健康診断の実施を控える動きがあったことなどから、前年を下回りました。なお、感染症の患者を対象とした抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®錠」の原料であるマロン酸ジエチルの出荷を行いました。

#### <その他部門>

当部門の売上高は87億20百万円と前年同期に比べ4億18百万円（4.6%）の減収となりました。

YKアクロス株式会社等の商社は取扱量が前年を下回りました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ18億20百万円増加の5,032億69百万円となりました。流動資産は、売上債権の減少などにより前連結会計年度末に比べ6億30百万円減少の1,978億22百万円となりました。固定資産は、投資有価証券の評価額の増加などにより前連結会計年度末に比べ24億51百万円増加の3,054億47百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加などにより前連結会計年度末に比べ19億61百万円増加の2,493億95百万円となりました。

非支配株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ1億40百万円減少して2,538億73百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の50.0%から49.8%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期連結業績予想につきましては、2020年5月13日に公表した「2020年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、通期業績予想のみ開示しておりましたが、現時点で入手可能な情報をもとに2021年3月期第2四半期(累計)業績予想を以下のとおりおりましたのでお知らせいたします。

なお、通期業績予想につきましては、2020年5月13日に公表した数値からの見直しは行っておりません。

また、配当予想につきましては、中間(第2四半期末)のみ開示し、期末は未定と致しますが、当社は経営計画「Denka Value-Up」で定めた株主還元方針に則り配当金を決定し、公表が可能となった時点で速やかに開示する予定です。

## 1. 2021年3月期連結業績予想の修正

2021年3月期第2四半期(累計)連結業績予想の修正(2020年4月1日～2020年9月30日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回修正予想(B)	160,000	12,000	12,000	10,000	115.94
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(参考)前期実績 (2020年3月期第2四半期)	191,953	15,348	14,533	10,852	125.25

(参考) 2021年3月期連結業績予想 (%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
第2四半期(累計)	160,000	△16.6	12,000	△21.8	12,000	△17.4	10,000	△7.9	115.94
通期	360,000	△5.5	31,000	△1.9	29,000	△3.4	21,000	△7.5	243.48

※上記の業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 2021年3月期配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想	—	—	—
今回修正予想	60.00	—	—
(参考)前期実績(2020年3月期)	60.00	65.00	125.00

(株主還元方針)

当社は、2017年11月に策定した経営計画「Denka Value-Up」において、企業の持続的成長に必要な「安全最優先」「環境への配慮」「人財の育成・活用」「社会貢献」を基本精神に掲げ、グローバルで飛躍的な成長を遂げるための新たな成長戦略により、当社が「スペシャリティーの融合体“Specialty-Fusion Company”」となり、「持続的成長」かつ「健全な成長」を実現することを目指しております。

これらの実現に向けて、投融資計画を策定する一方、株主還元については、2014年11月に策定した前経営計画「Denka100」の最終成果である収益について、株主様への配分を定めた総還元性向50%を基準とする「株主還元方針」を、経営計画「Denka Value-Up」でも、継続してまいります。

<経営計画「Denka Value-Up」における株主還元方針>

- ・総還元性向50%（基準）を継続
- ・配当を重視し、資金需要や株価推移などに応じ、機動的な自己株式取得も実施する。

※ 総還元性向 = (配当 + 自己株式取得) ÷ 連結当期純利益

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,172	32,748
受取手形及び売掛金	85,637	73,020
商品及び製品	52,159	57,530
仕掛品	4,037	6,036
原材料及び貯蔵品	19,582	20,124
その他	8,156	8,643
貸倒引当金	△293	△281
流動資産合計	198,452	197,822
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,503	62,636
機械装置及び運搬具（純額）	69,789	68,889
工具、器具及び備品（純額）	4,146	4,286
土地	63,370	63,372
リース資産（純額）	2,260	2,074
建設仮勘定	29,745	31,695
有形固定資産合計	231,815	232,954
無形固定資産		
のれん	7,544	7,259
特許権	523	495
ソフトウェア	1,002	1,038
その他	2,737	2,731
無形固定資産合計	11,808	11,525
投資その他の資産		
投資有価証券	51,200	54,260
長期貸付金	178	178
繰延税金資産	3,160	1,890
その他	4,949	4,755
貸倒引当金	△117	△117
投資その他の資産合計	59,371	60,966
固定資産合計	302,995	305,447
資産合計	501,448	503,269

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,005	40,458
短期借入金	51,929	44,810
コマーシャル・ペーパー	9,000	24,000
1年内返済予定の長期借入金	10,010	10,008
未払法人税等	3,550	1,970
未払消費税等	1,431	174
賞与引当金	2,992	5,306
その他	38,888	36,504
流動負債合計	160,807	163,234
固定負債		
社債	37,000	37,000
長期借入金	26,400	26,386
繰延税金負債	3,245	2,219
再評価に係る繰延税金負債	8,403	8,403
退職給付に係る負債	7,874	8,520
株式給付引当金	58	63
その他	3,644	3,567
固定負債合計	86,626	86,161
負債合計	247,434	249,395
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,365	49,412
利益剰余金	156,857	155,439
自己株式	△7,593	△7,594
株主資本合計	235,628	234,255
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,691	12,391
繰延ヘッジ損益	△551	△515
土地再評価差額金	10,259	10,259
為替換算調整勘定	△876	△1,412
退職給付に係る調整累計額	△4,429	△4,270
その他の包括利益累計額合計	15,092	16,452
非支配株主持分	3,294	3,166
純資産合計	254,014	253,873
負債純資産合計	501,448	503,269



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	90,884	76,233
売上原価	67,649	55,886
売上総利益	23,235	20,346
販売費及び一般管理費	16,487	15,944
営業利益	6,747	4,402
営業外収益		
受取利息	18	31
受取配当金	711	811
持分法による投資利益	66	562
その他	168	129
営業外収益合計	964	1,533
営業外費用		
支払利息	217	214
為替差損	259	12
固定資産処分損	275	224
操業休止等経費	260	165
その他	332	306
営業外費用合計	1,345	924
経常利益	6,367	5,011
特別利益		
投資有価証券売却益	—	158
特別利益合計	—	158
特別損失		
合併関連費用	—	252
特別損失合計	—	252
税金等調整前四半期純利益	6,367	4,917
法人税等	1,252	800
四半期純利益	5,115	4,116
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	96	△73
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,018	4,190

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	5,115	4,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,032	2,102
為替換算調整勘定	3	△549
退職給付に係る調整額	118	159
持分法適用会社に対する持分相当額	△192	△315
その他の包括利益合計	△1,104	1,396
四半期包括利益	4,011	5,512
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,907	5,549
非支配株主に係る四半期包括利益	103	△36

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノベ ーショ ン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	39,388	12,883	15,507	8,829	5,136	81,746	9,138	90,884	—	90,884
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	23	—	—	—	23	1,846	1,869	△1,869	—
計	39,388	12,907	15,507	8,829	5,136	81,769	10,984	92,754	△1,869	90,884
セグメント利益 又は損失(△)	3,811	255	2,597	△184	78	6,558	181	6,739	8	6,747

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額8百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	51,142	26,265	13,477	39,742	90,884
連結売上高に占める割合 (%)	56.3	28.9	14.8	43.7	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	エラス トマ ー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソリ ューシ ョン	電子・ 先端プ ロダク ツ	生活・ 環境プ ロダク ツ	ライフ イノー ベーシ ョン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	27,126	11,706	15,554	7,851	5,274	67,512	8,720	76,233	—	76,233
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	35	7	—	—	—	43	1,287	1,331	△1,331	—
計	27,161	11,714	15,554	7,851	5,274	67,556	10,008	77,564	△1,331	76,233
セグメント利益 又は損失(△)	1,287	171	2,813	81	30	4,383	△46	4,337	65	4,402

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額65百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	44,519	20,713	10,999	31,713	76,233
連結売上高に占める割合(%)	58.4	27.2	14.4	41.6	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基盤とし、国又は地域に分類しております。

## 2020年度 第1四半期決算概要

2020年8月7日  
デンカ株式会社

(単位:億円)

## 1. 業績

	2020年度 第1四半期実績 (4-6月)	2019年度 第1四半期実績 (4-6月)	増 減	2020年度 第2四半期予想 (4-9月)	2020年度 通期予想 (4-3月)
売上高	762	909	△ 147	1,600	3,600
営業利益	44	67	△ 23	120	310
経常利益	50	64	△ 14	120	290
親会社株主に帰属する当期純利益	42	50	△ 8	100	210

## 2. 総括(前年同期比)

・当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力いたしました。

・当第1四半期は、電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルム、半導体封止材向け溶融シリカフィラーなどの半導体関連製品は、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な出荷となりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、クロロブレンゴムをはじめ、一部主要製品で低調な出荷となりました。

また、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格を改訂したことなどから、売上高は147億円減収の762億円(前年同期比16.1%減)となりました。

利益面では、感染症拡大による大幅な需要減の影響を受ける中、スプレッドの改善や本社費・工場固定費の減少もありましたが、営業利益は前年に比べて23億円減益の44億円となりました(同34.8%減)。経常利益は50億円(同21.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は42億円(同16.5%減)と、それぞれ減益となりました。

・第2四半期以降、経済情勢は、感染症の再拡大の恐れもあり、先行きの不透明感は依然として残りますが、電子・先端プロダクツやライフィノベーションのスペシャリティー事業を中心に、「Denka Value-Up」の成長戦略を強力に推進し、期初予想の達成を目指します。

## 3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績	増 減	2020年度 第2四半期予想	2020年度 通期予想
投資	71	53	18	230	470
減価償却費	57	55	2	120	240
研究開発費	38	35	3	80	160
有利子負債残高	1,422	1,158	264	1,420	1,520

	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績
為替レート [円/\$]	107.7	110.8
国産ナフサ [円/k]	26,000	45,800

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、自動車産業を中心に全般的に生産活動が停滞したことから、クロロプレンゴムの販売数量が昨年を下回り、大幅な減益となりました。  
当第2四半期以降は、クロロプレンゴムの需要回復の兆しは一部みられるものの、通期では前年同期比減益の見通しです。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、改定した価格の維持や、コストダウンが寄与しましたが、石灰窒素、アズミンなどのアグリプロダクツや耐火物・鉄鋼用材料の販売数量が昨年を下回ったことなどにより減益となりました。  
第2四半期以降も、改定した価格の維持に努めるとともに、更なるコストダウンをはかり、通期では前年比増益を目指します。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、金属アルミ基板ヒットプレートなどの自動車産業用製品の需要減少がありましたが、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け熔融シリカファイバー、またxEV関連の球状アルミナの販売が前年を上回ったことなどから増益となりました。  
第2四半期以降も、半導体関連やxEV関係の出荷が堅調に推移する見通しであることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、感染症拡大の影響などにより、工業用テープ等の販売数量は昨年を下回りましたが、原材料価格の下落や固定費削減が寄与したことなどにより、増益となりました。  
第2四半期以降も、同じような状況が続く見通しであることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・ライフイノベーション部門は、感染症拡大の影響で、コロナ以外の検査件数や健診件数が減少し、検査試薬の販売が昨年を下回った一方、政府の要請を受け、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®」の原料であるマロン酸ジエチルの出荷を行いました。第1四半期の営業利益は、概ね前年並みとなりました。  
第2四半期以降も、社会のニーズに応えられるよう安定供給に努めてまいります。  
\*「アビガン」は富士フイルム富山化学株式会社の登録商標です。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績	増 減	2020年度 第2四半期予想	2020年度 通期予想
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	271	394	△ 123	550	1,250
	営業利益	13	38	△ 25	30	75
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	117	129	△ 12	250	550
	営業利益	2	3	△ 1	10	20
電子・先端 プロダクツ	売上高	156	155	0	330	730
	営業利益	28	26	2	65	135
生活・環境 プロダクツ	売上高	79	88	△ 10	160	330
	営業利益	1	△ 2	3	5	5
ライフ イノベーション	売上高	53	51	1	150	380
	営業利益	0	1	△ 0	10	70
その他 消去差	売上高	87	91	△ 4	160	360
	営業利益	0	2	△ 2	0	5
合 計	売上高	762	909	△ 147	1,600	3,600
	営業利益	44	67	△ 23	120	310

連結売上高増減	売 上 高				
	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	271	394	△ 123	△ 55	△ 68
インフラ・ソーシャルソリューション	117	129	△ 12	1	△ 13
電子・先端プロダクツ	156	155	0	△ 1	2
生活・環境プロダクツ	79	88	△ 10	△ 2	△ 8
ライフイノベーション	53	51	1	△ 0	2
そ の 他	87	91	△ 4	-	△ 4
合 計	762	909	△ 147	△ 56	△ 90

連結営業利益増減	営 業 利 益					
	2020年度 第1四半期実績	2019年度 第1四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	13	38	△ 25	△ 55	△ 34	63
インフラ・ソーシャルソリューション	2	3	△ 1	1	△ 4	2
電子・先端プロダクツ	28	26	2	△ 1	4	△ 0
生活・環境プロダクツ	1	△ 2	3	△ 2	△ 2	7
ライフイノベーション	0	1	△ 0	△ 0	2	△ 2
その他、消去差	0	2	△ 2	-	△ 0	△ 2
合 計	44	67	△ 23	△ 56	△ 34	67